

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について おひさまこどもクリニック

2020年2月19日18時 収録

2020年2月27日12時 放送

1) 2月19日時点の情報

現在の中国の患者数8万人弱、死者2千人程度と報道されています。

今朝の朝刊に中国の感染者4万4千人のデータが発表されました。

感染者の80%が軽症、14%が肺炎や息切れなどの重症、

5%が呼吸困難や多臓器不全による重体です。

こどもの感染例は比較的少ないとされています。

全体の死亡率は2%で、死者の多くは60代以上で10歳未満はゼロです。

2003年のSARSでは8069人中775人死亡(10%弱)、

MERSは2012年からこれまでに27カ国で2,494人の感染者が報告され858人(34.4%)が死亡しました。

新型コロナの毒性はこれらより低いが感染力が強く患者数が多いのが特徴です。

2) コロナウイルスとは？

風邪のウイルスは200種類以上あるといわれ、

コロナウイルスは、ライノウイルスに次いで2番目に多いウイルスです。

患者の咳や鼻汁から飛沫感染・接触感染し、糞便からも接触感染します。

人に感染するコロナウイルスは6種類が知られていました。

SARS-CoVとMERS-CoVを除く4種類は、風邪の原因の10-15%を占めます。

主な症状は熱と咳で、冬季に流行のピークが見られ、

ほとんどの子供は6歳までに少なくとも一度は感染し自然治癒します。

コロナウイルスは家畜や野生動物などあらゆる動物に感染し多くの種類があります。

新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)はSARS-CoVやMERS-CoVと同様、

動物のコロナウイルスが突然変異し、人から人への感染力を持ってしまったものです。

3) 検査や治療は？

潜伏期は2日から14日程度です。残念ながら現時点ではインフルエンザのような迅速診断も特効薬もありません。

ウイルスですので抗生剤は無効です。肺炎や呼吸不全などの重症者を除き、安静、水分補給などの対症療法で治るのを待つしかありません。

4) 予防は？

ワクチンはありません。

石鹸による手洗いとアルコールや塩素系の消毒剤が有効です。

咳のある人が周囲に移さないようにマスクで咳エチケットも大切です。

集団生活などの閉鎖空間では、定期的な換気が有効です。

新型コロナウイルス感染症についての相談・受診の目安

1. 相談・受診の前に心がけていただきたいこと

- 発熱等の風邪症状が見られるときは、学校や会社を休み外出を控える。
- 発熱等の風邪症状が見られたら、毎日、体温を測定して記録しておく。

2. 帰国者・接触者相談センターに御相談いただく目安

- 以下のいずれかに該当する方は、帰国者・接触者相談センターに御相談ください。
 - ・ 風邪の症状や37.5度以上の発熱が4日以上続く方
(解熱剤を飲み続けなければならない方も同様です。)
 - ・ 強いだるさ(倦怠感)や息苦しさ(呼吸困難)がある方
- なお、以下のような方は重症化しやすいため、この状態が2日程度続く場合には、帰国者・接触者相談センターに御相談ください。
 - ・ 高齢者
 - ・ 糖尿病、心不全、呼吸器疾患(COPD等)の基礎疾患がある方や透析を受けている方
 - ・ 免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方

(妊婦の方へ)

妊婦の方については、念のため、重症化しやすい方と同様に、早めに帰国者・接触者相談センターに御相談ください。

(お子様をお持ちの方へ)

小児については、現時点で重症化しやすいとの報告はなく、新型コロナウイルス感染症については、目安どおりの対応をお願いします。

- なお、現時点では新型コロナウイルス感染症以外の病気の方が圧倒的に多い状況であり、インフルエンザ等の心配があるときには、通常と同様に、かかりつけ医等に御相談ください。

3. 相談後、医療機関にかかるときのお願い

- 帰国者・接触者相談センターから受診を勧められた医療機関を受診してください。複数の医療機関を受診することはお控えください。
- 医療機関を受診する際にはマスクを着用するほか、手洗いや咳エチケット(咳やくしゃみをする際に、マスクやティッシュ、ハンカチ、袖を使って、口や鼻をおさえる)の徹底をお願いします。

日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会
新型コロナウイルス感染症に関する Q&A
(2020 年 2 月 12 日現在)

昨年 12 月に中国湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、武漢市を中心に大規模な流行が認められ、日本を含めた世界各国で患者報告数が徐々に増加傾向にあり、情報が更新されています。その一方で小児の患者に関する情報は限られており、当委員会では、現時点で想定される小児患者に関する疑問について Q&A を作成いたしました。なお、本見解は数少ない報告や、過去のコロナウイルス感染症を踏まえたものである事にご留意ください。また状況に応じて今後内容は更新する予定です。

Q 子どもが新型コロナウイルスに感染するとどのような症状がでますか？

A：現時点では情報が少なく、分からない点が多いです。中国からの報告では、2020 年 1 月 30 日時点で確定診断のついた 9,692 人中、小児患者は 28 人(生後 1 か月から 17 歳)のみでした。発熱、乾いた咳、倦怠感を訴える一方で、鼻汁や鼻閉などの上気道症状は比較的少ない様です。一部の患者では嘔吐、腹痛や下痢などの消化器症状を認めました。ほとんどが 1-2 週で回復しています。感染していても無症状である可能性も指摘されていますが、子どもは正確に症状を訴えられない事に注意しなければなりません。

Q 子どもの新型コロナウイルス感染症は重症化しますか？

A：いまのところ、成人が感染し、呼吸不全を呈し、重症化した報告はありますが、小児患者が重症化したという報告はありません。しかし、成人同様に感染後 1 週間ごろより呼吸状態が急速に悪化する可能性も指摘されています。なお、別の種類のコロナウイルスによる感染症である重症急性呼吸器症候群(SARS)や中東呼吸器症候群(MERS)では小児の患者の多くは比較的軽症であったことがわかっていますが、一部重症化したという報告もあります。

Q 小児ぜんそくなどの合併症を持っている子どもに関して特に注意すべきことはありますか？

A: 一般的に小児ぜんそくなどの合併症を持っている子どもの呼吸器感染症は重症化する可能性があります。ただ基礎疾患ごとにリスクや対応は異なりますので、かかりつけの医師にご相談ください。また、周囲の人が感染しないように気を付けることが重要です。

Q 母乳はやめておいた方がいいですか？

A: 母親が感染している場合は、接触や咳を介してお子さんが感染するリスクがありますので、直接の授乳は避ける必要があります。母乳自体の安全性については現時点では不明ですが、日本産科婦人科学会からは以下のように授乳を避けるよう推奨がなされています。

「コロナウイルス感染が確定し発熱を認める褥婦においては母体がウイルス血症となっていることが考えられ、授乳は控えるように指導する。解熱後3日までは感染力があると判断し、個室隔離、手洗い、接触のある物を次亜塩素酸ナトリウム(0.1%)で拭き上げることを徹底する。授乳開始は解熱後4日目を目安とする。(ただし、今後の解明によって上記の日にちは変更されうる)」

http://www.jsog.or.jp/news/pdf/20200206_coronavirus.pdf

Q 子どももマスクはしておいた方がいいですか？マスクが出来ない場合はどうしたらいいですか？

A: 感染している人のくしゃみや咳に含まれる飛まつを直接浴びないという観点からは、マスクをすることの利点はあるかと思いますが、小さなお子さんでは現実的ではないと思われます。感染者から 1-2 メートル以上の距離を保つこと、保護者の方が感染しないことがお子さんの感染予防につながります。

また、ウイルスに汚染されたおもちゃや本などに触れた手で、口や鼻、目を触ることで感染しますので、手洗いや消毒も大事です。

Q 子どもの症状が新型コロナウイルスによるものかもしれないと思ったら早めに医療機関を受診した方がいいですか？

A: 現時点（2020年2月12日）において、国内で新型コロナウイルスに感染している子どもは報告されていません。インフルエンザも含めた他のウイルスによるものと考えるのが妥当です。

また、「新型コロナウイルス感染」を疑って一般の医療機関や休日夜間急病診療所等へ受診しても、診断を確定するための検査はできません。むしろ新型コロナウイルス曝露の機会を増やす危険性を念頭におく必要があるでしょう。

さらには、新型コロナウイルス感染の軽症者に対する特異的な治療法もありません。

このような段階では、多呼吸、努力性呼吸、呼吸困難等、肺炎を疑う症状があり、入院加療が必要と考えられる場合を除いては、「新型コロナウイルス感染」を心配して医療機関を受診することは勧められません。

参考文献

1: Shen K, et. al., Diagnosis, treatment, and prevention of 2019 novel coronavirus infection in children: experts' consensus statement. World J Pediatr. 2020 Feb 7;10.1007/s12519-020-00343-7. PMID: 32034659.

2: Chen ZM, et. al., Diagnosis and treatment recommendations for pediatric respiratory infection caused by the 2019 novel coronavirus. World J Pediatr. 2020 Feb 5; PMID: 32026148.

換気の重要性！

<垂直感染の可能性>

ユニセフ:調査中

CDC(アメリカ疾病管理予防センター):限られた文献ではあるが、垂直感染は見られていない。

<母乳からの感染>

ユニセフ:母乳育児を続けて良い。ただし、母親からの飛沫により感染するリスクがあるので、マスクの着用、授乳前後の手洗いが必要。母親の病状が重い場合は搾乳して与える。

CDC:限られた情報では、母乳からはSARS-CoV-2は検出されていない。